

# 授業科目 在宅看護学演習

【担当教員名】 宇田 優子、杉本 洋、島貫 秀樹		対象学年	2	対象学科	看護
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	○	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】 在宅看護の役割は地域で療養する人とその家族の健康生活への支援であり、関係職種と連携協力しながら看護独自の機能を果たしていくことである。在宅看護学演習では、日常生活支援と医療処置の必要な療養者と家族への看護について理解し、模擬事例をとおり在宅看護の主な方法である家庭訪問について学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 療養者と家族が安心して生活するための環境について説明できる 2. セルフケア能力と家族の条件を考慮した日常生活支援技術を模擬事例で計画できる 3. 医療処置を必要とする療養者と家族の看護について概説できる 4. 在宅看護過程の特徴を説明できる 5. 家庭訪問の方法や留意点について概説できる					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	在宅看護過程、演習の進め方			4	講義
2	事例展開（1）			1・2・4	講義、個人ワーク
3	事例展開（2）			1・2・4	個人ワーク
4	事例展開（3）			1・2・4	個人ワーク
5	事例展開（4）			1・2・4	グループワーク
6	事例展開（5）			1・2・4	グループワーク・発表準備
7	事例展開（6）			1・2・4	グループ発表
8	事例展開（7）			1・2・4	グループ発表
9	在宅看護技術の実際（訪問態の取り扱い、血圧測定）			3・5	実技演習
10	在宅技術の実際（訪問の仕方、マナー）			5	実技演習
11	医療処置を必要とする療養者と家族への支援（在宅酸素療法等）			1・3	講義
12	医療処置を必要とする療養者と家族への支援（在宅酸素療法等）			1・3	実技演習
13	人工呼吸器を使用し、在宅療養している療養者・家族の実際			1～4	講義
14	人工呼吸器を使用し、在宅療養している療養者・家族の実際			1～4	講義
15	訪問時のリスクマネジメントの実際・まとめ * 授業内容や順序は変更する場合があります			1～5	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		新版 在宅看護学	木下由美子	医歯薬出版株式会社	2009・2,400円＋税・在宅看護学 概論の教科書と同じ
参考書					
その他の資料		必要に応じて配布する			
【評価方法】 演習への貢献度（出席、参加態度及び提出物を含む）40% レポートあるいは筆記試験 60%			【履修上の留意点】		